

会 議 録

会議の名称	西東京市男女平等参画推進委員会（第3回）
開催日時	平成14年8月29日 午後7時00分から9時00分まで
開催場所	西東京市民会館第5会議室
出席者	(委員)堀口委員長、加藤委員、神島委員、赤石委員、石井委員、中村委員、西山委員、佐藤委員、田口委員、岩西委員、高橋委員、角田委員 (事務局)三芳主幹、岩田係長、森山主査、ｲﾝﾃﾞﾞ 2人
議 題	1 データーから見る課題の検討 2 その他
会議資料	1 西東京市の状況 2 他市町村の状況 3 ポジティブ・アクションのための提言
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発言内容
委員長	本日は市民の方が2名傍聴にきている。では、次第に沿って事務局から説明を。
事務局	まずはお詫びから。前回までの謝礼の振りこみ額に誤りがあった。明日には振り込まれる。ご迷惑をおかけした。
委員長	次に、資料について修正がある。委員会では「会議録」と名称を統一しているので、「議事録」は「会議録」と読み替えてほしい。
委員長	会議録についてだが、今回の配られたものは少し長いのではないかと思う。またインテージも大変なので、次回の分からは今回と前回の間ぐらいのものになると思う。
委員	次回、計画の骨子について打ち出していくために、今回検討を行っていくので、それを考慮にいれながら意見を出してほしい。特に、今まで触れられなかった分野について検討していきたい。またこれまで発言のなかった方も意見をだしてほしい。
委員	では、順番に発言を。
委員	先日の委員会で西東京市基本計画策定のワークショップへの参加呼びかけがあったので参加した。女性問題は行政施策全体にかかわってくるのでどの分野に参加するか悩んだが「市民参加」に参加した。男女共同参画の視点で考えてほしいと発言したが、今後の課題にされてしまうなど、市民の中に位置づけされていないと思った。基本計画にどう反映されるか不安だ。
委員	DVについてのデータは保谷での意識調査があるが、今後西東京でどのように施策に盛り込んでいくのが重要と感じた。また、仕事と家事・育児との両立について、保育園の問題をどうみていくか、介護・看護の問題についても話し合っていく必要があると思う。
委員	アンケートをするのであれば、これまでの意識調査を踏まえて実態調査的なアンケートにしたほうがよいのではないかと思った。例えば子育てにかかわっている具体的な時間や、自分は誰に介護をされたいのか、といったアンケ

<p>委員長</p>	<p>ートが必要ではないか。またメディアについてはアンケートが取られていないし、施策もまだそこには触れていない。現在、新たに問題とされていることをアンケートなどをしながら、施策として提言していきたい。</p> <p>前回お休みになったかたにはわかりにくかったかもしれない。8月4日に開かれた西東京市の市民ワークショップについて報告された。ほかに参加された人がいれば関連で発言を。</p>
<p>委員</p>	<p>運営の方法については参考になった。意見を出して対等に話し合うというワークショップ形式は、この委員会のどこかでやれてもいいのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>私は「福祉」のグループに参加した。高齢者問題が大きなテーマではあるが、障害者やひとり親などいろいろ対象者がいるが、どうしても元気な男性の問題になりがちだった。そこに男女平等施策の課題を持ち込むのはなかなか難しいと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢者問題は元気な男性の問題だったとのことだが、資料をみると高齢者は女性が多い。現実とのミスマッチがあったのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>家事と育児の両立や介護の問題は、ポジティブ・アクションについてとかかわりが多い。どういった女性がそういった環境で働けるのかと考えると、結婚していない人や子どものいない人が比較的多いのではないか。まだまだ子どもを育てながら活躍できる状態にはない。一部の女性を活用して企業が名前を売っているという面もあるかもしれない。就業するための環境（保育園のことなど）が現実的にどういようになっているのかをアンケートできればいいのではないか。</p> <p>例えば、育児をしながらパートをしている方などに、なぜこの仕事についているのか、など。多くの場合、育児の合間にしか働けないからということが出てくるのではないかと思うが、そういったことが調査して施策に反映していければいいのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>意識調査も大切だが、具体的な援助のためには実態調査が重要。女性に対する暴力の実態調査ができればと思う。DVやセクハラ、ストーキングについてなど。調査をするうえで定義がないものを調査しても無駄。定義の説明をきちんとしたうえで調査をする必要があると思う。アメリカやヨーロッパなどの定義を盛り込んだ調査ができるといいのではないか。DV法の認知なども聞きたい。実際に被害を受けた人がどのように行動したのかということを知りたい。その後の具体的施策を考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>すでに基本法ができて数年たっている。国レベルの施策や都の施策も進んでいる。その下に、垂直的に市の計画がある。一方水平的には西東京市の総合計画との関係もある。垂直的に施策が進められていることを考えると、地域特性を把握しておかないと意味がなくなる。生活過程のすべてにかかわることであり、あれも必要、これも必要とすべて持ち出して、それを西東京市がやっていないのではないかとっても、あまり意味がない。市としての権限もあるし、前回取り組んでほしいと出た意見を全部やるとなると、市役所の職員を10倍にしても足りないのではないか。時間の制約、人員的制約、お金の制約のある中で考えていかなければならない。とすれば西東京市という地域はどのような性格をもったところでどのように類型化できるのかを考えなければならない。</p> <p>今日配付された『多摩地域データブック』は非常によい資料だが、男女別に集計されていない。44ページに年少人口割合が出ているが、西東京はそこそ</p>

	<p>こどものいる地域というのがわかる。高齢者の割合は中間くらい。これらは東京近郊のベッタウン的な性格が出ているものである。</p> <p>18ページの労働力状態をみると、第3次産業の割合が多い。ベッタウンとしてここに住んで働きに行く人が多いことがわかる。また田無地域を中心に、商業中心、商業流通の中心としての特徴がみえる。第3次産業の比率は他市と比べてきわめて高いといえる。</p> <p>男女共同参画を進める上での課題というのは、日本では2種類あると思う。一つは九州とか東北などの地方では、荒っぽくいえば女は嫁としてしか生きていけない。それを社会がどう解放していくか、という問題が重点となる。では西東京市のような若い地域はというと、第3次産業でパートタイムで働きに行く女性が多い。フルタイムで働きに行く人も含めて、就労を促進する施策とか、就労しやすくしていくために家庭生活を支援していく、特に子育て支援など。古い地方では、親戚や隣近所で面倒をみてもらえるという機能もあるが、若い地域ではネットワークが崩壊してしまっている。よって地方自治体がコミュニティを支えていくということが課題になってくるのではないか。</p> <p>ここは学会でないので、データの裏付けもなく荒い表現をしたけれど、地域類型として西東京をどう考えていくのか、西東京市として何をしていくのかということを考えていく必要がある。</p>
委員	<p>47・48ページに保育所や児童館の数が出ているが、西東京の数は決して悪くない。そののところも頭に入れて検討していきたい。</p>
委員	<p>国でかなり進んでいるとの話があったが、国の基本法は理念法であり、行政は男女平等を進めていくということが責務であると書かれている。加えて自治体は国に準じた施策に地域の特性を踏まえて上乘せ・横だしをしていくことを期待されている。</p>
	<p>西東京市が抱えている、西東京らしい課題について意識していきたい。</p> <p>実態調査をするということが予定されており、実態を知るといことはとても重要なことと思う。女性が子育てをしながら働くというのは、いまだに非常に難しいと思う。人口比の中で数がクリアできれば十分かといえば、実態は違う。預ける条件は夫婦とも働いているということなのに、0歳児の保育時間などとても働きながら預けられる状況ではない。実際には二重・三重に保育をしないと仕事と両立するのは難しい状況である。人気のある園とそうでない園があったり、産休明けに定員一杯で入れないということなど、問題がある。</p>
委員長	<p>専業主婦の子育ても孤立していて困難がある。ファミリー・サポート・センターについても預けたい人は多くても預かる人が足りないということがあ。単に数を見るだけではなく、実際に働ける状況になっているかどうか、という点を見ていく必要がある。生活している人が安心して働けるという状況になっているのか、というスタンスで調査をしていく必要があると思う。</p> <p>企業の求める拘束性（全国転勤・長時間労働）と子育てが合わないところがある。企業にとって女性は効率の悪い労働者ということになってしまう。女性にとっても働きにくいものとなっている。</p>
委員	<p>逆に2人で働いて2人で育てるという視点で子育て期の男性の労働にマッチした保育行政を考えていく必要があるのではないか。</p>
委員	<p>法律が新しくできたので、DV等について実態調査を。あわせて警察の対応に変化がもとめられているので、田無警察との連携の仕組みなどを考えていく</p>

<p>委員長 委員</p>	<p>必要があると思う。</p> <p>介護保険について、前回資料の実施状況をみると、ヘルパーの派遣など取り組まれているのがわかるが、保険料や個人負担分が大変重いという面について問題とされており、自治体によっては援助をしているが、西東京市はどうかかわからないので、教えてほしい。またそれを充実させる方法を考えたい。</p> <p>保育の点については、「病児保育・夜間保育の検討」について「実施済み」となっているが、検討を実施したのか、取り組みが変わったのかわからない。保育園の申し込みは生まれてからしかできないが、実際は妊娠した時点でいつから職場復帰できるのか、そのときに保育園に入れるのが不安なもの。生まれてからでないと申し込みできないという制度や、年度途中からの入所が可能になるようになど、ぜひ改善してほしい。</p> <p>病児保育について、武蔵野市に病児保育の病院があり、西東京市民でも個人的に登録をしておけば、病気のと看に看護婦さんが保育園に迎えにきて、病院で先生の診察を受けて、保育をしてもらえ。武蔵野市の子どもであれば、助成金がつくが、西東京などの近隣市の市民の場合はすべて個人負担である。西東京市にそのような制度がどの程度あるのか、また近隣市の施設をどの程度つかえるようになっているのか。市内に施設が十分になくても、運用によって他市の制度を活用できるようになればと思う。</p> <p>また、PTAに圧倒的に男性の参加が少ないのを改善する必要があると思う。男性の労働時間の問題ともかかわる。男性の意識を調査する必要もあると思う。男性自身、参加したくても参加できない実態なのか、そもそも参加する気がないという意識の問題なのかを調べてほしい。意識調査自体に啓蒙的な意味もあるので、問題点がどこにあるのかを浮き彫りにする意味でも実態と意識をあわせた調査をしてほしい。</p> <p>公立中学校の給食について、三多摩で実施しているところもある。お弁当は母親の愛情という面があるのかもしれないが、負担でもある。その実施についても考えたい。</p> <p>同じ義務教育と考えると、小学校にあって中学校にないのは疑問だと思う。夏休みは教員は「勤務」なので、研修は校長が認めたものだけで、あとは出勤するように、となっている。最近、教員の評価のための自己申告という制度があり、夏休みの間に面接を行った。その際、女性の教員と面接した時に「勤務」ということを通して、共通の発言が出てきた。「男女平等が進んでいるところだと思ったため教員になった」と、つまりこれまでは夏休みなどは子育てができていたが、「勤務」となって基本的に夏休みは出勤となると、自宅にいるためには「休暇」を取らざるを得なく、年間の休暇を使い果たしてしまうことになる。それらの発言から、一番男女平等が進んでいると思われる学校で、本当に男女平等になっているのかを確かめたくなくて、私的に調査を試みた。私的な資料なので公開はできないが、その中で、東京都で男性の先生で育児休暇を3日とった人が一人だけいることがわかった。</p> <p>私の勤務校で尋ねたものだが、男女平等が進んでいるかとの問いに対しては、ほとんどの人が進んでいないと答えた。また不必要だと思う男女別の分化について聞いたところ、男子は黒、女子は赤、名簿も男子は先、女子は後。作品の展示も教室の中で男子が上、女子が下。配付物も男子が白、女子がピンク。女子のピンクはかわいいから、男子にはかっこいいからという理</p>
-------------------	--

<p>委員 委員 委員 委員</p>	<p>由。なぜ男子は「かっこいい」なのか、と尋ねていった。座席やグループ分けも男女別。これは男女で一緒にすると問題が起こるからという理由。学習指導の調査では「君」「さん」。実験も男女別。一緒にすると苦労するという意識らしい。テストの平均点はすべての先生が男女別に出している。選択教科も男女別。</p> <p>性別による固定的な見方としては、学級経営では司会は男子、記録は女子。班長男子、副班長女子。すべてではないが、こういう回答も出てきたということ。あるクラスでは、女子は掃除をするが男子は掃除をしない。逆に男子が掃除をして女子がしないクラスもある。</p> <p>国語・社会の先生は女子優位論、理数は男子優位論。男性の教員は生活指導など女子生徒に厳しくできない。男子に対しては相当厳しい。</p> <p>進路指導では女子には安全確実性を、男子には挑戦校を進める。</p> <p>教員自身、男女は平等と一緒にやらなくてはという意識はあるものの、カリキュラムに入っていくと無意識に固定観念が出てしまう。学校の教室の中で先生が無意識でやってしまうことが、子どもの中に無意識に伝わっていると感じた。少し狭い分野について細かすぎることはあるが、実態調査のなかで少しでもあきらかにできればと思う。</p> <p>男女混合名簿については西東京市では自由なのか。</p> <p>小学校ではやっているが、中学校ではやっている学校は少ない。</p> <p>校長の裁量なのか。</p> <p>校長がやろうといっても、無意味だという反論がでる。</p> <p>学校の名簿について、法的な拘束はないし、教育委員会もこだわってはいないが、長年最初に業者からくる名簿が分かれているので、わざわざいっしょにするのは面倒。</p> <p>小学校であれば男女一緒に活動することが多いので名簿を一緒にすることもわかるが、中学校では発育や発達が異なってきているので、男女一緒に行うことの方が不可解。身体測定など別々にすることが多いので。</p>
<p>委員</p>	<p>東京都の中学校で平成12年度では661校のなかで男女混合名簿は20数校。</p> <p>スクール・セクシュアル・ハラスメントの問題が深刻な問題としていわれているが、その点については触れたのか。</p>
<p>委員</p>	<p>今回は触れなかった。保護者と教員、教員と生徒、教員同士などいろいろあるのは理解している。部活動などの不必要な介入などとても問題だと思う。セクシュアル・ハラスメントについては定義が難しい。少なくとも人が不愉快におもうものはそうだと説明はしている。小学校の方が何気なくされていて問題かもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>配られた資料をみると、中学校では女性と男性の教員が半数ずつなのに、女性の校長が0なのはなぜか。中学校の女性の先生で管理職になるには小学校にいかなくては、と聞くが・・・それは男女平等が進んでいる社会とは思えない。</p>
<p>委員</p>	<p>3年前の職場は都の指導主事には男性しかいなかった。今は必ず女性がいるようになっている。昨年度、中学校の管理職を辞めたひとが20人に対して、300人～400人の受験があった。男女の問題ではなくて、中学校では管理職になるが難しい状況。教員採用試験でも同様。</p> <p>女性自身が中学校が大変だからと、小学校を受ける傾向もある。</p>
<p>委員長</p>	<p>隠れたカリキュラムというのは昔からいろいろと言われている。保育園・幼稚園のころから男の子色・女の子色というような男女別がはじまっている。</p>

	<p>運動会の商品からちがっている。大人は無意識かもしれないが、子どもは敏感に感じ取っている。学生にレポートを書かせると、小・中・高でのいろんな経験が出てくる。スクール・セクシュアル・ハラスメントについても、階段の下からスカートの中をのぞいているなどという例もあり、中学校の制服になぜ、スカートしかないのかという意見もある。</p> <p>イギリスなどでも初等教育には女性の教員が多いのだが、離婚が増えて母子家庭で育った子どもは、大人の男性と触れ合ったことがないなどの例も増えている。日本でも平日お父さんと触れ合う時間がとても少ない子どももいる。大人の男性と接触する機会が子どもにないというのは、先進国共通の問題ではないか</p>
委員	<p>教員の管理職を受けられる年齢が下がったが、ちょうど女性にとっては子育て真っ最中で、受けにくいということもある。先に男性がどんどん管理職になっていく。そういった制度的な問題もあるのではないか。</p>
委員	<p>このようなジェンダーの視点をもって校長先生が調査をしてくれるというのは、とても重要。</p>
委員 委員	<p>今の指摘を反映できる調査ができればと思う。</p> <p>私的な経験だが、子どもの中学校の校長は女性だった。市によって状況が違うと感じた。高校では男女混合名簿だった。</p> <p>既成概念を変えるのは、大切だがなかなか大変だと思う。保健所に日々相談にくる人と接していて、「男性は（父親は、夫は）こうあるべき」、「女性はこうあるべき」という意識にとらわれていることを痛感することが多い。</p> <p>新生児訪問をしていて、里帰りの人が多くなっている。またその期間が長引いているとの感触がある。3ヶ月、半年という例も少ないがある。子どもが生まれたとき、また生まれる前から夫婦と一緒に子育てに向き合う、かけがえのない時期を経験しない人が増えているのではないか。里帰りが長くなると、子育て支援のタイミングももちにくくなり、地域での公園デビューなどで声を掛け合うなどもされにくくなっているのではないか。実態に即した地域での子育て支援をもっと考えたい。</p> <p>子育ての葛藤を抱えて、厳しい状況にある人がいる。虐待寸前であったり、パートナーがわかってくれないなかで、どうしようもないというケースを探っていくとDVなどの背景が現われてくることがある。二人目の子育て時に大変なケースもある。意識の面と実態について調査できればと思う。</p> <p>障害児の保育については、西東京市は前向きに行ってきていると思う。今後地域でさらに取り組みを進められないかと思う。</p>
委員長	<p>子育て支援に多様な問題があるといういうことを忘れてはいけないと思った。</p>
委員	<p>他の市でも同様の委員会に出たことがあり、担当セクションに施策の取り組みの自己評価をさせた資料を見たことがある。メニューは豊富だが、実際に取り組みされていることはほとんどないということがある。労働施策というと国や都の施策との役割分担の整理が必要だが、国がやっていることを網羅的にメニューに並べることに意味はない。地域に密着した施策を考えていく必要がある。ファミリー・サポート・センターという事業は地域に密着したよい事業だと思う。そうした地域密着型の施策を考えていく必要がある。</p> <p>一つ、東京都が新しい施策として提案している事業がある。アクティブ・シニア就労支援事業という。高齢者は地域密着型の労働者であり、元気高齢者の就業支援のセンターを作っていくことは非常に意味のあることではない</p>

委員	<p>か。東京都はそのための補助金を用意している。今年度新規に始まった事業であるが、すでに練馬・品川で始まる。</p> <p>先日公園デビューをやってみた。母子やおばあちゃんと子どもというケースが多かったこともあり、父子では入っていきにくかった。父子でも入っていきやすい社会にぜひなってほしい。</p> <p>資料の中で男女の平等感というデータで「学校」「地域」以外は「男性の方が優遇されている」と答えた人が多かったが、そんなに不平等を感じていることに驚き、そういう状況を変えていかなければと思う。</p> <p>先日の取り組み状況の資料ではAランクになってない施策や未実施の施策も多かったが、項目としてはよくできていると思った。とりあえず未実施のものをやってみて、また実施済のものもそれを推し進めて、例えばリーフレットなどカウンターに備えるだけでなく各家庭に配布したり、メディアを活用したり、などできたらよいのではないかと。</p> <p>また、男性が優遇されているとのことだが、女性の地位を男性のレベルにまで持ち上げればそれでよいのだろうか。男性と女性は精神的にも肉体的にも違いがあると思うが、違いを踏まえた上での平等施策について、やっていくのではないかとと思うが、はたしてそうなのか。</p> <p>「平等」というのは「差別がない」ということか。「差別がない」というのは「待遇が同じ」ということなのか。状況にもより一概にいけないので私は、その点、悩んでいる。「平等」「共同」と簡単に口にするが、皆さんはどのような認識をもっているのか。古くからの固定的な性別役割分業はよくないとは思いますが、肉体的な違いは職種の違いにもつながっているのではないかと。向き・不向きというのがあるのではないかと。管理職の数を同数にすることが「平等」なのか。「不平等」と感じているものを変えていく必要があると思うが、そのためには、男性の認識だけではなく、女性の認識も変えていく必要があると思う。</p> <p>平等と共同の違いがわかりにくいですが、平等であり共同である環境整備を。環境整備というハードの部分と男女双方の意識改革というソフトの部分両方必要と思う。</p>
委員長	<p>男性が男性を見る意識というの、もう一度考えてみる必要があるのではないかと。男性が非常に厳しい働き方を強制されているということも、もっと男性自身が生き方に対する意識を変えていく必要があるのではないかと。</p> <p>女性が校長になれない理由は何なのか、という障害を洗い出す必要があると思う。いろいろ構造的な原因が見えてくるのではないだろうか。それをやらないで来てしまったというのが、今の日本の問題なのではないだろうか。</p> <p>ここにいる男性の委員の方に一緒に考えてほしい。男性と女性の機会を平等にすればよいとは思わない。あるべき人間としての姿を考えていく必要がある。基本法の理念をもう一度見直して計画に生かしていく必要がある。</p>
委員	<p>女性はアンケートをしてみると損な社会と出てくるが、それをあたりまえと感じて、女性自身が課題と感じていないことも多いのではないかと。それがこのような世の中が続いている原因なのではないだろうか。難しいことを聞いても乗ってこないのではないかと。そういう実態に即した調査をしたほうがいい。</p> <p>子育てと就労、親やつれあいの介護についてなど、女性への負担が多いことについて、問題提起していきたい。育児休暇は圧倒的に女性が取得している。育児休暇を取ったために昇進が遅れるという実態もある。以前は育児休</p>

<p>委員長</p> <p>委員</p>	<p>暇は女性のみだったのが、今は男性も取得できるようになっている。これは社会的に男性の子育てへの参加を認めているということ。しかし、最近の調査結果によると、育児休暇を取っているのは、ほとんどが女性で、男性はごくわずかとの実態が浮き彫りになっている。</p> <p>児童館など数字的には充実しているように見えるが、駅の近くの保育園は入りにくかったり、きょうだい別々の園しか入れなかったりというケースもある。保育園の条件にあわせてパートにならざるを得ないケースも多い。駅の近くや自宅の近くなど自分（親）の希望する保育園に入るには、議員や有力者の力が必要で、そういう人たちの知人がいない世帯では希望地でない所への入園で我慢せざるを得ないという。保育園への入園状況（希望する所に入れたか等）なども調べてほしい。</p> <p>学童クラブは4年生まで入れるようになったため、4年生であまり出席しないにも関わらず、夏休みのためだけに入っている人がいる。待機の人もいるので、保育園だけでなく、学童に対しても支援が必要。</p> <p>学童クラブでは学校以上にスキンシップが多い。土曜日は職員が少ないために男性の先生のみになるのが不安で休ませる人もいる。親（保護者）の不安原因を取り除くような、職員配置が必要ではないか。</p> <p>一度仕事をやめて復帰する場合、ある程度子どもが大きくなってから復帰しようと思っても受け入れ態勢がない。元気な高齢者の受け入れを考えると同時に、中年の受け入れも考えてほしい。</p> <p>障害児の問題も重要だと思う。学校への受け入れが可能になってきたが、保育園、学童クラブ等の受け入れや、きちんと受入体制が整っているのか。施設や職員について心配することなく保護者が就労できるのだろうか。</p> <p>子育てを経験している人を保育補助として採用するという話に期待。そのような子育て経験者からのサポートについての仕組みができればいいと思う。</p> <p>女性側のずるさという面もあると思う。103万の枠があったほうがいいのかどうか、自分の就労に対する意識などの調査をしてはどうか。女性自身が首をしめているということもあるのではないかと。ほとんどの人が身近に感じられるテーマでアンケートを取っていった方がいい。</p> <p>一番最初のアンケートの年齢層で20歳からということがあったが、ある程度年齢になってしまった人たちの意識を変えるのは難しいので、もう少しこれから育っていく年齢層にもアンケートをぜひ。</p> <p>最後の意見に私も賛成。子どもの権利条約を批准していて、子どもの意見表明権を認めているにもかかわらず、子どもの意見を聞く機会が少なすぎる。</p> <p>保谷市の平成12年の意識調査をみると、20歳代の既婚男性はわずか9名であったが、その中でDVを受けている人がいた。その世代のデータがもう少し多くとれるようにアンケートがとればいいのか。若い世代の男女平等感が見えてくるのではないかと。</p> <p>介護は誰に看てもらいたいのかという聞き方ではなく、自分が「看たい人」としてはどうか。実際に看ている人の数は意識調査でなくても出てくると思うが、看たいと思っている場合にはどういう援助を市がすれば、それが可能になるのかという具体的な施策につながるのか、「看たい人」というのを入れたらいいのではないかと。</p> <p>デンマークでは学生を男女同数集めて座らせると、自然に男女交互に座ったが、日本ではそれぞれ固まって座ってしまう。この違いはいつから生まれたのだろうか、興味がある。</p>
----------------------	--

	<p>地方で整形外科の病室で、男女同室というケースを聞いた。必要があるときはカーテンを閉めることにすればよいわけで、別室に隔離するよりも男女同室のほうが、お互いいつも身綺麗にしていりハビリも一生懸命やって早く退院できるので、わざわざそうしているとのこと。看護師やヘルパーについては女の人がやるという概念をやめて、おじいさんは女性のヘルパーさんによるこんでいるのだから、おばあさんにも男性に来てもらえる喜びがあってもいいのではないか。西東京市の実態はわからないが、ヘルパーなども男女それぞれ受け入れたらよいのではないか。</p> <p>企業はポジティブ・アクションなどで表彰されると、その方向性を進めていかざるを得なくなる。アンケートは個人に対してだけではなく、企業にもできないだろうか。</p>
委員長	<p>ヘルパーの件はいろいろ難しい問題を感じる。ヘルパーなどはセクハラなど深刻な問題もある。高齢者の施設などで、女性のおむつを変えるのが男性の介護師では嫌だという当事者の声を聞いたこともある。アンケートの対象というのは確かに大切で、どこの調査でも40歳代の男性の返答が少ないといわれている。健康の問題、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの問題なども出てきた。次回までにどんな柱立てがよいのかそれぞれ考えてきてほしい。</p>
事務局	<p>次回は9月19日(木)。会場が4Fの「梅」。その先は10月7日(月)、23日(水)までが決まっている。会場の都合があるので、その先も決めたい。11月12日(火)、11月25日(月)の都合の悪い方はいるか。では、決まり。ただし、12日は会場は市役所になる。</p> <p>11月9日、10日に西東京市の市民祭りが開かれる。実行委員会で準備をすすめているが、生活文化課が事務局。市民祭りに大勢人が集まるので、そこで何かアピールをしたいという意見があれば早めに意見を出してほしい。</p> <p>また、9月7日(土)この部屋で講演会を行う。タイトルは「夫婦ゲンカが犯罪になるとき」。ぜひ参加してほしい。</p>
委員長 事務局 委員長	<p>市民祭りへの参加はいつまでに表明すればいいのか。</p> <p>次回の委員会の際に。</p> <p>では、祭りの参加について企画のある人は、次回までに考えてきてほしい。</p>
委員	<p>次回の会議までに、事務局に用意してもらいたいもののある人はいるか。</p> <p>委員の連絡先などは知らせてもらえないのか。お互いに連絡を取れるようにしてほしい。また、ファミリー・サポート・センターの利用率や実施状況がわかるような資料を出してほしい。</p>
委員	<p>保育園の年齢別の定員と待機児数。また待機児のうちどれくらいが無認可に受け入れられているのかの数を出してほしい。</p>
委員	<p>病児保育の実施状況を。</p>
委員長	<p>名簿についての意見のある方は。</p>
委員	<p>自宅の連絡先か？仕事できているので、事務局を通してもらったほうがいいのではないかと。有志でということならいいが。</p>
委員	<p>有志ということでもいい。</p>
事務局	<p>後ほどそれぞれの意向を確認させてもらう。</p>
委員	<p>会議録の名前は公開しないはずだったのではないかと。</p>
委員長	<p>今日渡された会議録が公開用のもので、名前は伏せられている。以前のものは確認用に、わかりやすくように名前が入っていた。</p>
委員	<p>勘違いした。了解した。</p>